



報道で紹介された美瑛高校 22

◆令和6年9月27日(R6. 10. 12 びえい新聞)

第1回美瑛高校「MA+CHプロジェクト」コンソーシアム会議が行われました。美瑛町農業組合や森林組合、商工会など12の団体の方が参加されました。

校長先生より取り組みの説明の他、2年生の探究活動の中間発表も見ていただきました。美瑛高校の特色ある取り組みの一つとして成功させましょう！！

い 新 聞

2024年（令和6年）10月12日 (4)

地学協働による持続可能なまちづくりを推進 美瑛高校MA+CHプロジェクト始動



地域と学校が連携・協働のもとに、地域全体で子どもたちの学びや成長をサポート。第1回美瑛高校「MA+CHプロジェクト」コンソー

シアム会議が、9月27日に美瑛高校2階視聴覚室で開かれた。開会にあたり、三上英一校長が「道内14指定校で今年度からスタート。全道に広がる活動で、モデルとなる一校であることを念頭に置き取り組んでいきたい。生徒数は少ないが、一人ひとりが自己実現に向けて落ち着いた学校生活を送っている」とあいさつ。コンソーシアムの事業計画や規約などの説明も添えた。

同コンソーシアムは、美瑛高校の教職員によるプロジェクト推進委員会と、町農業協同組合、森林組合、商工

会、社会福祉協議会、国立大雪青少年交流の家をはじめとする美瑛町内の各団体職員に旭川市立大学も加えたコンソーシアム構成員などで構成。相談役として北海道教育庁上川教育局教育支援課も置いている。「美瑛高校が掲げる目的（生徒の資質・能力の育成を達成するために、構成員相互の理解を深め、協力の在り方について協議するとともに、地域の未来を担う人材の育成を図る）ことを目的に掲げており、協働事業としては①総合的な探究の時間をはじめとする「探究学習プログ

ラム」への協力・支援、②各教科における地域と連携した活動への協力・支援、③学校行事における地域と連携した活動への協力・支援、④美瑛高校の教育活動に係る情報交換・広報活動、⑤コンソーシアムの持続的発展のための体制構築に関すること」の5項目があげられている。三上校長は「旭川市立大学から幾つかの魅力的な提案をいただいているが、構成員の皆さんにも、高校生にこんなことができないかといった地域巡検のプランを提案してもらえればと思う。またドローンを活用している会社などの紹介にも協力を。高校生と地域のつながりが持てるプロジェクトになれば」と協働を呼びかけた。

説明に続き「総合的な探究の時間」で取り組んでいる活動について、2年生の4人がそれぞれ中間発表。冬のイベントやキャンピング、学用品のリユース・リデュース、オリジナルテマソングといった提案の内容および進行状況を説明した。